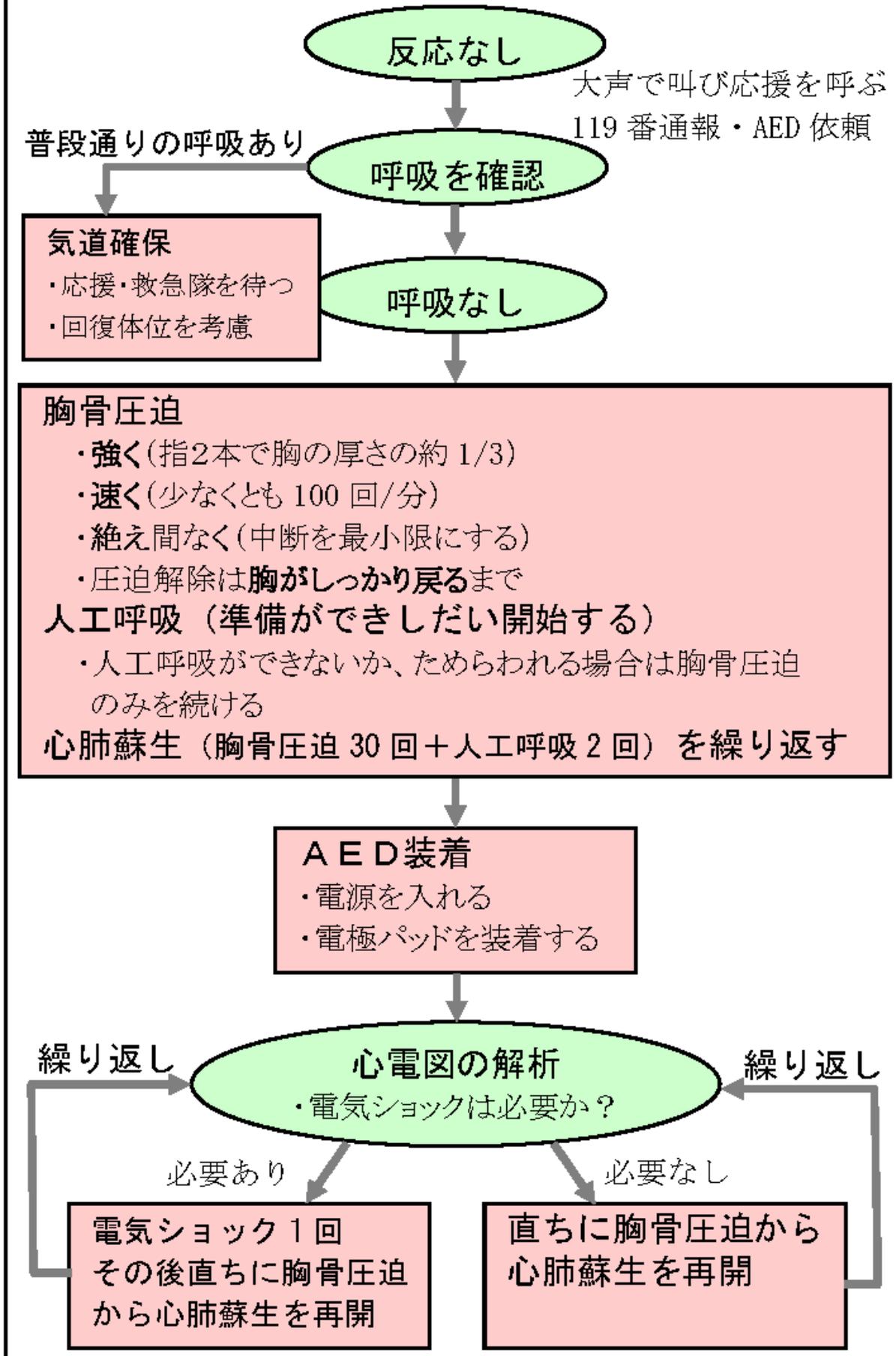


乳児(1歳未満)・新生児の救命処置の流れ

救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用)



以上の流れを、救急隊に引き継ぐか、傷病者がうめき声を出したり、息をし始めるまで絶え間なく続ける。

乳児に対する救命処置の手順

1 反応を確認する

- 声をかけながら反応があるかないかを確認する。
このとき、足の裏を刺激するのも有効。



2 助けを呼ぶ

- 反応がなければ、大きな声で「誰か来て！ 子供が倒れています！」と助けを求める。
- 協力者が来たら、「あなたは119番へ通報してください」「あなたはAEDを持ってきてください」と要請する。



自分ひとりしかいない場合は、まず自分で119番通報、AEDの手配をします。

3 呼吸の確認

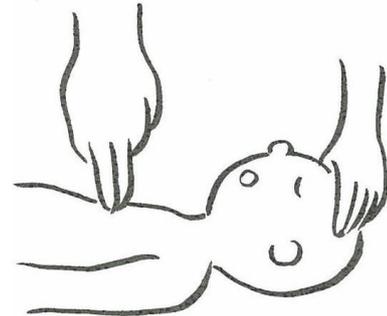
胸や腹部の上がり下がりを見て、正常な呼吸(普段どおりの息)をしているかどうかを確認する。



4 胸骨圧迫 (心臓マッサージ)

正常な呼吸がなければ、ただちに胸骨圧迫を開始する。

- 位置は、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とした胸の真ん中とする。
- 圧迫は指2本で、胸の厚みの1/3程度沈むほど強く圧迫する。
- 1分間に少なくとも100回のテンポで30回連続して圧迫する。
- 圧迫と圧迫の間は、胸がしっかり戻るまで十分に圧迫を解除する。



胸の1/3以上、30回！

乳児だからといってやさしく圧迫しては効果がありません。

5 人工呼吸 (口対口鼻人工呼吸)

正常な呼吸(普段どおりの息)がなければ、口対口鼻人工呼吸により息を吹き込む。

- 気道を確認したまま、口を大きくあけて傷病者の口と鼻を覆い、空気が漏れないようにして、息を約1秒かけて吹き込み、胸が持ち上がるのを確認する。
- いったん口を離し、同じ要領でもう1回吹き込む。

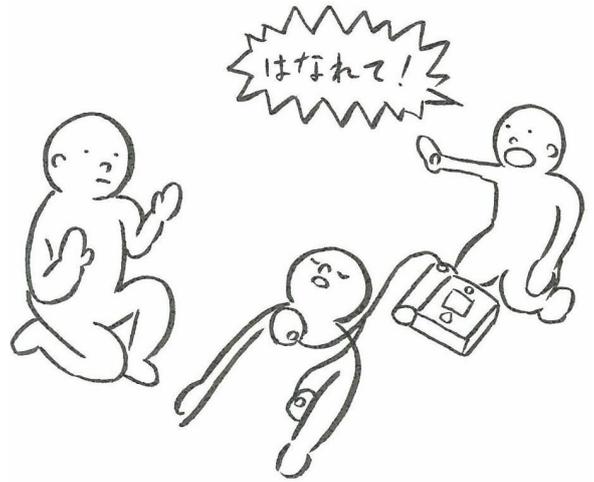


6 心肺蘇生法 (胸骨圧迫と人工呼吸を継続)

- 胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせ(30:2のサイクル)を、救急隊に引き継ぐか、傷病者がうめき声を出したり、息をし始めるまで絶え間なく続ける。

7 AEDの到着と準備

- AEDを傷病者の頭の横に置く。
- ふたを開け、電源ボタンを押す。ふたを開けると自動的に電源が入る機種もある。
- 電源を入れたら、以降は音声メッセージとランプに従って操作する。
- 衣服を取り除き、胸をはだける。
- 電極パッドの袋を開封し、電極パッドをシールからはがし、パッドに書いてある体の部位にしっかりと貼り付ける。
(右胸/左脇腹に貼るタイプや、胸部/背部に貼るタイプあり)
小児用パッドが備わっていれば、それを用い、備わっていない場合には成人用パッドを代用する。

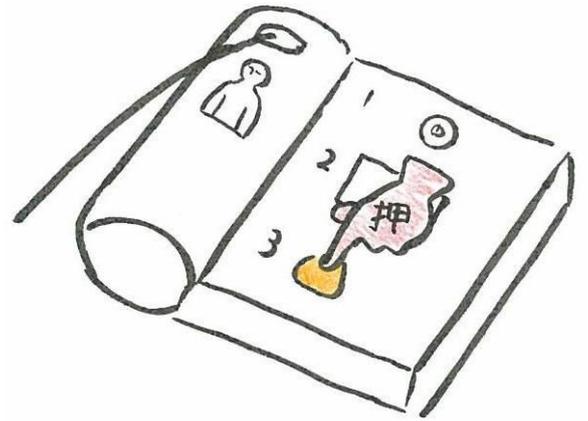


8 心電図の解析

- 電極パッドを貼ると「体に触れないでください」などと音声メッセージが流れ、自動的に心電図の解析が始まる。
このとき、「みんな離れて!」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認する。

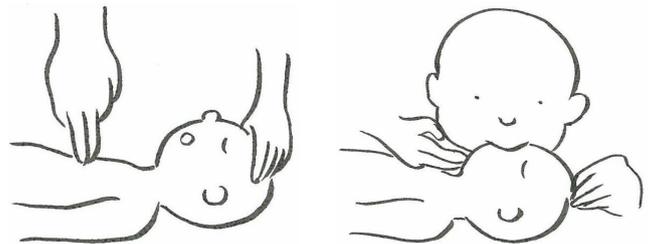
9 電気ショック

- AEDが電気ショックを加える必要があると判断すると「ショックが必要です」などの音声メッセージが流れ、自動的に充電が始まる。充電には数秒かかる。
- 充電が完了すると、「ショックボタンを押してください」などの音声メッセージが流れ、ショックボタンが点灯し、充電完了の連続音が出る。
- 充電が完了したら、「ショックします。みんな離れて!」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認し、ショックボタンを押す。



10 心肺蘇生法を再開

- 電気ショックが完了すると、「ただちに胸骨圧迫を開始してください」などの音声メッセージが流れるので、これに従って、ただちに胸骨圧迫を再開する。
胸骨圧迫30回、人工呼吸2回の組み合わせを続ける。



11 AEDの手順と心肺蘇生法の繰り返し

- 心肺蘇生法を再開して2分経ったら、AEDは自動的に心電図の解析を再び行うので、音声メッセージに従って傷病者から手を離し、周りの人も離れる。
- 以後は、〔⑧心電図の解析、⑨電気ショック、⑥心配蘇生法の再開〕の手順を、約2分間おきに繰り返す。

胸骨圧迫!
角度は垂直に30回!

人工呼吸を2回!